



今日から後期が始まります。

前期終業式では、みなさんに、挑戦する心、勇気をもってほしいこと、あきらめずに努力し続ける力を身に付けてほしいこととお話ししました。

今日は、これからのこととお話しします。

まずは、遠い未来についてです。現在、地球温暖化が進み、これまでになかった異常気象が頻繁に起きています。学者の中には、過去に氷河期がきて恐竜が絶滅したように、温暖化が生物の大量絶滅をもたらすのではないかと、それが私たち人類の滅亡にもつながるのではないかと、という人もいます。脱炭素社会への取組が加速しているのも、そのためです。私たちの生活も、これまで以上に環境への配慮が必要になると思われます。

そして、この温暖化が先進国による石油などの化石燃料を使った消費活動が影響していること、その過剰な消費活動が、例えば、アフリカ諸国で新型コロナウイルスのワクチン接種がほとんど進んでいないという貧富の格差を生んでいるとすれば、まずは私たちの生活を見直さなければならないことにもなります。

次は、もう少し近い未来、将来についてです。これからの社会は、ますます多様化が進んでいくと考えられます。様々な価値観や考え方の人々が、ともに生活する時代になるわけです。現代社会は、すでにグローバル化が進み、国と国との垣根が低くなっており、コロナが収束すれば、世界中で人の行き来がさらにふえることが予想されます。グローバル化が進むことで心配されるのが、国や民族の違いによる価値観や考え方の違いです。人類の歴史を見れば、こうした価値観や考え方の違いが、戦争のきっかけになります。考え方の違いは、私たちの身近な生活の中にもあります。学級内で問題が起きる時、その多くは考え方の違いです。

では、どうしたら、そうした争いや問題がなくなるか。互いが自らの考えを明確に伝え、その中で折り合いをつけることが必要なのではないかと思います。では、どう折り合いをつけるか。具体的に言えば、関係者が集まり、どこに問題があるのかを探ることです。多くの場合、複数の人が集まる集団には、何らかの約束事があります。その約束事にしたがって、物事を見直し、互いに歩み寄っていく。時には、その約束事を変更する。

みなさんの先輩は、この約束事の変更を経験しています。学校に教科書などを置いていてよいという、いわゆる「置き勉」は今から3年前、みなさんの先輩が決めました。一年生のみなさんが着ているジャージも、昨年度の生徒会活動で、現在の二・三年生のみなさんが決めたことです。

コロナ禍をきっかけに、様々なことが見直されています。現在のみなさんの生活をよりよくし、みなさんのよりよい未来をつくっていくために、社会の一員として、多くの仲間と力を合わせて、自分ができること、すべきことを考えて、行動してみてもはどうでしょう。

さて、今日から後期が始まります。日常がもどり、新しい組織での学校生活が始まります。9月の全校集会でお話したように、自分たちの学級を分析的に見つめること、学習に取り組む態度を充実させ、考える力や学力を伸ばすことに、心がけてほしいと思います。

さらに、後期は行事が続きます。学習発表会、文化交流会、野外総合活動。生徒会活動では、岐阜豊学校との交流が始まり、みなさんは新しい世界とつながります。

学校行事においても、コロナ禍を機会に、なぜこの行事があるのか、先輩たちはこの行事からどんなことを学んだのか、じっくり時間をかけて行事に取り組みながら、そして仲間と関わりながら、改めて考えてみてほしいと思います。仲間とともに過ごす時間、仲間とともに活動する時間は貴重であり、こうした時間はみなさんの心に刻まれ、みなさんの心を豊かにします。

挑戦する心、勇気を持ち、何事にもくじけず努力し続け、少しでも未来や将来、そして世界や社会に目を向けながら、自分たちの学校生活を前向きにつくっていく、そんな後期になることを期待します。